

## (9) 神経内科

### 外来

1) 神経内科の外来は二瓶が月、木、金の午前、午後、長澤が月、金の午前、午後、水の午前を担当している。外来の患者数は漸次増加している(医事統計資料参照)。神経内科の外来方針として、新患は速やかに診察することを目標としており、予約外でも当日でも受け付けている。

2) 対象疾患：外来に訪れる患者の主な症状は、発達の遅れ、言葉の遅れ、知能の遅れ、頭が大きい、頭が小さい、筋肉がやわらかい、筋肉が固い、痙攣発作、意識障害、意識変容、精神症状、感覚障害、運動障害、歩行障害、脱力、失神、不随意運動、頭が痛い、疲れやすいなど様々である。対象疾患は脳、小脳、脳幹、脊髄、末梢神経、筋肉などの疾患である。

3) 発達外来：総合診療部で行っている発達外来のなかで神経科的に診察が必要な例に対して、月2回(水曜日午後)神経内科による発達外来をおこなっている。

4) おもちゃ図書ライブラリー：おもちゃや本の読み聞かせによって、発達の遅れのこどもを指導する試みがなされている(現在は月、水、金の午前10時から午後3時)

5) いるか介在療法：発達障害の児を対象に発達神経学的、発達心理学的な立場から試みている。

### 病棟

診断、治療、ケアのために入院する。病棟は神経科本田真美ほか総合診療部のレジデント、医師、神経内科医師、関連する他科の医師等によるグループ診療がなされている。入院する疾患の特徴は、難治性てんかん、炎症性疾患、血管障害、変性疾患、代謝病、ミオパチー、ニューロパチー、重度障害児などいわゆる神経筋疾患の難病が多い。

また、急患で痙攣、意識障害などで入院する例、他の専門診療科で神経症状を呈する例が多く、それらの症例に対しても神経内科は対応している。

火曜日午後に全病棟の神経科入院患者だけでなく神経疾患関連の患者の回診を行っている。

### 電気生理学的検査報告

脳波、筋電図、末梢神経伝導速度、聴性脳幹反応、視覚誘発電位、サーモグラフィー、発汗試験などについては、依頼により検査、判読している。その数は年間2000件を越す。

### 神経講義

平成14年4月から7月まで、神経グループ(脳神経外科、神経内科、発達心理科)勉強会による講義を行った(火曜日午前8時から9時)。以下の演題で計9回の講義がなされた。

1)新しいてんかん外科(脳神経外科 師田信人) 2)自分をコントロールできない子どもたち(発達心理科 宮尾益知) 3)新しい画像診断(放射線科 堤義之) 4)ポケモン事件に学ぶ(神経内科 二瓶健次) 5)リハビリテーションでなにをするか(リハビリ科 上野竜一) 6)精神疾患の考え方(思春期診療科 生田憲正) 7)遺伝解析と遺伝相談(遺伝診療科 奥山虎之) 8)口蓋裂概論・鼻咽腔閉鎖(形成外科 金子剛) 9)音楽テクノロジーを用いた新しい音楽療法(音楽療法士 長田有子)

### 神経内科スケジュール

火曜日午前8時半から、抄読会、勉強会

火曜日午後1時半から入院患者検討、全病棟ラウンド、定期的なNICU回診は月2回

水曜日午後2時(月2回)発達外来

木曜午後 5 時半から神経放射線カンファレンス（神経内科、脳神経外科、発達心理科、放射線科合同）

月から金曜午後 5 時から脳波等判読

### **成育医療センターとしての神経内科の取り組み**

- 1) 院内の専門診療科との連携診療
- 2) 継続診療（成人診療科への移行が困難な例、家族、本人が希望する例については継続診療を行う）15 歳以上の患者数は医事統計資料のごとくである。
- 3) 難病をもつ児の家族を含めた包括的医療、社会との連携  
難病の児が成育するに伴い、病院内だけでの対応は難しくなり、家族、社会との連携も限られた条件の中で行っている。

### **社会との連携**

- 1) 難病のこども全国支援ネットワークとの連携
- 2) 各種患者会との連携（とくに亜急性硬化性全脳炎（SSPE）の親の会、先天性無痛無汗症の親の会、ミトコンドリア病の会、結節性硬化症の会、レット症候群の会との連携）
- 3) 一般向け講演会、シンポジウム
  - (a) 健やか親子 21 シンポジウム（二瓶健次：小児慢性疾患支援ネットワークを考える）平成 14 年 11 月
  - (b) 難病をもつ女性の結婚、妊娠、子育てに関する公開シンポジウム、成育医療研究委託事業「難病をもつ母体から出生した児の予後に関する研究」班主催、平成 14 年 12 月
  - (c) 第 32 回小児皮膚科生涯セミナー（二瓶健次：発達学からみた小児、赤ちゃんの特性）小児皮膚科学会主催、平成 14 年 12 月
  - (d) 病弱児セミナー（二瓶健次：病弱児をめぐる新しい医療）難病のこども全国支援ネットワーク主催平成 15 年 1 月
  - (e) シンポジウム：生涯を見通した健康障害への対応（二瓶健次：先天性無痛無汗症、亜急性硬化性全脳炎の対応、障害関係団体との協力を通じて）日本発達障害学会主催、平成 15 年 1 月
  - (f) シンポジウム：新時代 TOY がもたらす新しい可能性（二瓶健次：入院児の遊びを豊にするサポート TOY）日本産業能率協会、平成 15 年 3 月
- 4) 難病サマーキャンプなど

### **研究活動：研究班会議等（平成 14 年度）**

- 1) 主任研究：成育医療研究委託事業「難病をもつ母体から出生した児の予後に関する研究」
- 2) 分担研究：厚生労働科学研究費補助金「プリオン病及び遅発性ウイルス感染調査研究」
- 3) 分担研究：厚生労働科学研究費補助金 小児期発症のミトコンドリア脳筋症に関する臨床的研究、効果的医療技術の確立推進臨床研究事業「小児期発症のミトコンドリア脳筋症に対する L アルギニンおよびジクロロ酢酸療法の効果判定と分子病態を踏まえた新しい治療法の開発に関する臨床研究」
- 4) 共同研究者：国立病院・療養所共同臨床研究「脳組織リサーチソースネットワーク（脳組織 PRN）を用いた神経、筋疾患の発生機序と治療に関する研究」
- 5) 分担研究：厚生労働科学研究費補助金生活安全総合研究「母乳中のダイオキシン類と乳児への影響に関する研究」
- 6) 分担研究：ゲームソフトが人間に与える影響に関する調査研究班、イメージ情報科学研究所、
- 7) 分担研究：映像刺激における脳内情報処理機構の解明、「映像デジタルコンテンツ評価システムの開発に関するフィージビリティスタディー」電子情報技術産業協会、

- 8) 分担研究：チャイルドシート着用時のこどもへの生理学的、心理学的影響、三井住友海上福祉財団
- 9) 研究協力：メディアの子どもへの影響研究 メディアと子どもの総合研究プロジェクト、代表（小林登）